

★supplement

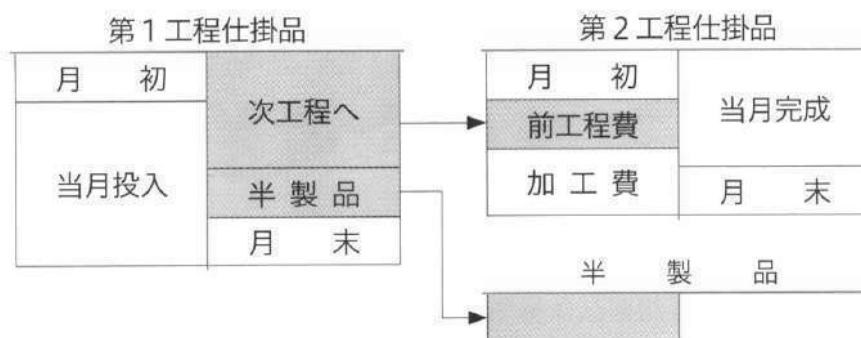
部門別個別原価計算との違い（工程別に集計される原価）

工程別総合原価計算では、一原価計算期間に各製造工程に集計された原価を完成品と月末仕掛品に按分計算する必要があるため、通常、すべての原価要素を工程別に集計します。これに対し部門別個別原価計算では、製造直接費は比較的正確に製品に対して集計できることから、通常、製造間接費が部門別に集計されます。

4 半製品

工程別総合原価計算において、各工程の作業を完了したものを工程完了品とよびますが、この工程完了品の全量が必ずすぐに次の工程へ投入されるわけではありません。

工程完了品のうち、次の工程へ投入されないで倉庫に保管されたものを半製品はんせいひんといいます。



(第2工程仕掛品) × ×
(半製品) × ×

(第1工程仕掛品) × ×

設例 15-2

第1工程完了品100個（@238円）のうち、75個は第2工程へ投入したが、25個は第2工程へ投入せずに倉庫に保管した。

この場合の第2工程振替高（前工程費）および半製品原価を計算しなさい。

〈解答・解説〉

第2工程振替高（前工程費）：@238円 × 75個 = 17,850円

半製品原価：@238円 × 25個 = 5,950円

（参 考）

第1工程完了品原価の振替仕訳は、次のようになります。

(第2工程仕掛品) 17,850 (第1工程仕掛品) 23,800
(半製品) 5,950

Theme

15

総合原価計算(Ⅳ)

基本例題32

解答・解説297ページ

次の資料により、A組製品とB組製品についての(1)組別総合原価計算表を完成させ、(2)完成品原価を振り替えるための仕訳を示しなさい。なお、組間接費の配賦は機械運転時間を基準に行い、月末仕掛品の評価は、A組製品は先入先出法、B組製品は平均法により行う。

(資 料)

1. 生産データ	A組製品	B組製品
月初仕掛品	30kg (5/6)	20kg (3/4)
当月投入	120	120
合 計	150kg	140kg
月末仕掛品	50 (2/5)	40 (1/2)
完 成 品	100kg	100kg
機械運転時間	1,500時間	300時間

なお、直接材料は始点においてすべて投入されており、() 内の数値は加工進捗度を示している。

2. 原価データ	A組製品	B組製品
月初仕掛品		
直接材料費	15,000 円	5,400 円
加 工 費	21,850 円	2,240 円
当月投入		
直接材料費	84,000 円	24,000 円
加 工 費	20,750 円	10,000 円
組 間 接 費	72,000 円	

(1) 組別総合原価計算表 (単位：円)

	A組製品	B組製品
月初仕掛品原価		
当月直接材料費		
当月加工費		
合 計		
差引：月末仕掛品原価		
完 成 品 原 価		
完 成 品 単 位 原 価		

(2)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

基本例題34

解答・解説299ページ

次の資料にもとづき、当月の製造原価報告書および損益計算書を作成しなさい。なお、製造間接費は実際配賦している。

(資 料)

1. 材 料	月初有高	当月仕入高	月末有高
直接材料	600円	2,400円	500円
2. 賃 金	月初未払額	当月支払額	月末未払額
直接工賃金	750円	3,600円	650円
間接工賃金	100円	900円	200円

(注) 直接工賃金の消費額はすべて直接労務費である。

3. 経 費
 - 水道光熱費 (測定額) 900円
 - 保険料 (支払額) 1,700円
 - 減価償却費 (月額) 3,000円
4. 製造間接費の実際配賦額は6,600円である。
5. 仕掛品

月初有高	月末有高
6,500円	4,700円
6. 製 品

月初有高	月末有高
7,600円	6,300円
7. 販売費及び一般管理費は1,300円である。

月次製造原価報告書 (単位：円)

自×年12月1日 至×年12月31日

I 直接材料費	
月初材料棚卸高 ()	
当月材料仕入高 ()	
合 計 ()	
月末材料棚卸高 () ()	
II 直接労務費 ()	
III 製造間接費	
間接工賃金 ()	
水道光熱費 ()	
保険料 ()	
減価償却費 () ()	
当月総製造費用 ()	
月初仕掛品棚卸高 ()	
合 計 ()	
月末仕掛品棚卸高 ()	
当月製品製造原価 ()	

月次損益計算書 (単位：円)

自×年12月1日 至×年12月31日

I 売上高	25,000
II 売上原価	
1 月初製品棚卸高 ()	
2 当月製品製造原価 ()	
合 計 ()	
3 月末製品棚卸高 () ()	
売上総利益	()
III 販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

基本例題35

解答・解説300ページ

次の資料にもとづき、当月の製造原価報告書および損益計算書を作成しなさい。なお、製造間接費は予定配賦している。また、原価差異は当月の売上原価に賦課する。

(資 料)

1. 材 料	月初有高	当月仕入高	月末有高
直接材料	600円	2,400円	500円
2. 賃 金	月初未払額	当月支払額	月末未払額
直接工賃金	750円	3,600円	650円
間接工賃金	100円	900円	200円

(注) 直接工賃金の消費額はすべて直接労務費である。

- 経 費
水道光熱費 (測定額) 900円
保険料 (支払額) 1,700円
減価償却費 (月額) 3,000円
- 製造間接費の予定配賦額は6,900円である。
- 仕掛品 月初有高 月末有高
6,500円 4,700円
- 製 品 月初有高 月末有高
7,600円 6,300円
- 販売費及び一般管理費は1,300円である。

月次製造原価報告書 (単位:円)	
自×年12月1日 至×年12月31日	
I 直接材料費	
月初材料棚卸高 ()	
当月材料仕入高 ()	
合 計 ()	
月末材料棚卸高 () ()	
II 直接労務費 ()	
III 製造間接費	
間接工賃金 ()	
水道光熱費 ()	
保 険 料 ()	
減 価 償 却 費 ()	
合 計 ()	
製造間接費配賦差異 () ()	
当月総製造費用 ()	
月初仕掛品棚卸高 ()	
合 計 ()	
月末仕掛品棚卸高 ()	
当月製品製造原価 ()	

月次損益計算書 (単位:円)	
自×年12月1日 至×年12月31日	
I 売上高	25,000
II 売上原価	
1 月初製品棚卸高 ()	
2 当月製品製造原価 ()	
合 計 ()	
3 月末製品棚卸高 ()	
差 引 ()	
4 原 価 差 異 () ()	
売上総利益	()
III 販売費及び一般管理費	()
営 業 利 益	()

基本例題36

解答・解説300ページ

Theme
18

標準原価計算(I)

当工場では製品Aを連続大量生産している。次のそれぞれの場合における完成品原価および月末仕掛品原価を求めなさい。

問1 当工場が標準原価計算を採用している場合

問2 当工場が実際原価計算を採用している場合（月末仕掛品の評価方法：平均法）
（資料）

1. 製品Aの標準原価カード

	(標準単価)	(標準消費量)	
直接材料費	100円/kg	5kg	500円
	(標準賃率)	(標準直接作業時間)	
直接労務費	200円/時間	10時間	2,000円
	(標準配賦率)	(標準直接作業時間)	
製造間接費	300円/時間	10時間	3,000円
製品A 1個あたり標準製造原価			<u>5,500円</u>

2. 当月の生産実績は次のとおりである。

月初仕掛品	20個	(50%)
当月着手	120	
合計	140個	
月末仕掛品	40	(50%)
完成品	100個	

材料はすべて工程の始点で投入している。また、()内の数値は加工進捗度である。

3. 当月の実際原価データ

	直接材料費	直接労務費	製造間接費
月初仕掛品	11,320円	20,640円	31,600円
当月投入	68,200円	226,800円	350,000円

問1 標準原価計算を採用している場合

完成品原価： 円

月末仕掛品原価： 円

問2 実際原価計算を採用している場合

完成品原価： 円

月末仕掛品原価： 円

設例 18-2

標準原価計算を採用している当社の資料により、仕掛品勘定の記入を行いなさい。

(資 料)

1. 製品1個あたりの標準原価は、次のように標準原価カードにまとめられている。

	(標準単価)	(標準消費量)	
直接材料費	100円/kg	5kg	500円
	(標準賃率)	(標準直接作業時間)	
直接労務費	200円/時間	10時間	2,000円
	(標準配賦率)	(標準直接作業時間)	
製造間接費	300円/時間	10時間	3,000円
製品1個あたり標準製造原価			<u>5,500円</u>

2. 当月の生産実績は次のとおりである。

月初仕掛品	20個 (50%)
当月投入	<u>120</u>
合計	140個
月末仕掛品	<u>40</u> (50%)
完成品	<u>100</u> 個

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、()内の数値は加工進捗度である。

3. 当月の実際発生額は次のとおりであり、仕掛品勘定の当月投入を実際原価で記入する方法(パーシャル・プラン)による。

実際直接材料費	68,200円
実際直接労務費	226,800円
実際製造間接費	350,000円

4. 原価差異を振り替える。

〈解 答〉

仕 掛 品			
前月繰越	60,000	製 品	550,000
材 料	68,200	次月繰越	120,000
賃 金	226,800	原価差異	35,000
製造間接費	350,000		
	<u>705,000</u>		<u>705,000</u>

仕 掛 品			
前 月 繰 越	()	製 品	()
材 料	()	次 月 繰 越	()
賃 金	()	価 格 差 異	()
製 造 間 接 費	()	()	()
時 間 差 異	()	()	()
()	()	予 算 差 異	()
()	()	()	()
	()		()

月次損益計算書 (単位：円)

自×1年11月1日 至×1年11月30日

I 売 上 高		()
II 売上原価		
1 月初製品棚卸高	()	
2 当月製品製造原価	()	
合 計	()	
3 月末製品棚卸高	()	
差 引	()	
4 原 価 差 異		
価 格 差 異	([])	
数 量 差 異	([])	
賃 率 差 異	([])	
時 間 差 異	([])	
予 算 差 異	([])	
操 業 度 差 異	([])	
変動費能率差異	([])	
固定費能率差異	([])	([]) ()
売 上 総 利 益		()

(注) 原価差異については、売上原価に加算する場合は金額の前に「+」を、減算する場合は金額の前に「-」を付記しなさい。

解答欄

問1

仕 掛 品					(単位：円)	
前 月 繰 越	6,495,600	製 品 (				
材 料 (	)	次 月 繰 越 (				
賃 金 (	)	/				
製 造 間 接 費 (	)					
(	)					

問2

仕 掛 品				(単位：円)	
前 月 繰 越	6,360,000	製 品	()		
材 料	()	次 月 繰 越	()		
賃 金	()	直 接 材 料 費 差 異	()		
製 造 間 接 費	()	直 接 労 務 費 差 異	()		
製 造 間 接 費 差 異	()				
	()				

問3

価 格 差 異： 円 (借方, 貸方)

数 量 差 異： 円 (借方, 貸方)

(注) 借方, 貸方のうち不要なものを二重線で消すこと。

解答・解説338ページ

CHALLENGE!

複合問題

基本例題40

解答・解説304ページ

以下の資料により、全部原価計算による損益計算書と直接原価計算による損益計算書を作成しなさい。

(資 料)

1. 売上高100,000円 (@ 400円× 250個)
2. 製造原価：直接材料費 12,000円 (@ 40円× 300個)
 加工費
 変動加工費 18,000円 (@ 60円× 300個)
 固定加工費 (期間総額) 24,000円
3. 販売費：変動販売費 5,000円 (@ 20円× 250個)
 固定販売費 (期間総額) 10,000円
4. 一般管理費：すべて固定費 (期間総額) 8,000円
5. 当期の生産・販売資料：

期首仕掛品量 0 個	期首製品在庫量 0 個
当期投入量 <u>300</u>	当期完成品量 <u>300</u>
投入量合計 300 個	合 計 300 個
期末仕掛品量 <u>0</u>	期末製品在庫量 <u>50</u>
当期完成品量 <u>300 個</u>	当期販売量 <u>250 個</u>

全部原価計算による損益計算書 (単位：円)

I 売上高	()
II 売上原価	
1 期首製品有高 ()	
2 当期製品製造原価 ()	
合 計 ()	
3 期末製品有高 ()()	
売上総利益	()
III 販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

直接原価計算による損益計算書 (単位：円)

I 売上高	()
II 変動売上原価	
1 期首製品有高 ()	
2 当期製品製造原価 ()	
合 計 ()	
3 期末製品有高 ()()	
変動製造マージン	()
III 変動販売費	()
貢献利益	()
IV 固定費	
1 固定加工費 ()	
2 固定販売費及び一般管理費 ()()	
営業利益	()

基本例題41

解答・解説305ページ

次の資料にもとづき、全部原価計算による損益計算書と、直接原価計算による損益計算書をそれぞれ3期分作成しなさい。なお、製造間接費は実際配賦している。

(資 料)

1. 販 売 単 価 @ 400円
2. 製 造 原 価：製品1個あたり変動製造原価 @ 100円
固定製造間接費（期間総額） 24,000円
3. 販 売 費：製品1個あたり変動販売費 @ 20円
固定販売費（期間総額） 10,000円
4. 一般管理費：すべて固定費（期間総額） 8,000円
5. 生産・販売資料：

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
期首在庫量	0個	0個	50個
当期生産量	250個	300個	200個
当期販売量	250個	250個	250個
期末在庫量	0個	50個	0個

(注) 各期首・期末に仕掛品は存在しない。

	損益計算書（全部原価計算）			(単位：円)
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	
売 上 高	()	()	()	
売 上 原 価	()	()	()	
売 上 総 利 益	()	()	()	
販売費及び一般管理費	()	()	()	
営 業 利 益	()	()	()	

	損益計算書（直接原価計算）			(単位：円)
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	
売 上 高	()	()	()	
変動売上原価	()	()	()	
変動製造マージン	()	()	()	
変動販売費	()	()	()	
貢 献 利 益	()	()	()	
固 定 費	()	()	()	
営 業 利 益	()	()	()	

Theme
20

直接原価計算(I)

問1 製品1個あたり変動費 円/個

年間の固定費 円

問2

損益計算書				(単位:円)
I	売上高		(	)
II	変動費		(	)
	貢献利益		(	)
III	固定費		(	)
	営業利益		(	)

問3 (1) 損益分岐点売上高 円

(2) 安全余裕率 %

(3) 目標売上高営業利益率を達成する売上高 円

解答・解説349ページ